

# 川柳 さいたま

暑中風交募集



ヒメサユリ（姫小百合）

令和3年（2021年）  
6月号（No.739）

日川協加盟

## 巻頭言

笑顔とSARS

上唇と下唇の接合部、すなわち口の両脇を、ほんの少しだけ上げてみて下さい。笑っている表情になるでしょ。ご自分では決して笑っている訳ではないのですが、顔の表情筋がそうさせているのです。ヒトの顔の表情は、意思伝達と共に、感情の交歓にも大事な手段であることは誰しもが経験則で身に付けます。赤ちゃんに微笑みかけると笑顔が返ってくるのもそれで、真似て覚える知恵らしいです。更にヒトは笑顔が伝染することを身に付けます。そして笑うことが習い性となる。加齢とともに刻まれた笑い皺は、勲章かも知れませんが。

何はともあれ口角を上げて目尻を細めれば、ヒトは何とも愛らしい笑顔になれる。それ以外の派手な素振りや無理な世辞など、全く無用な和の場を創れる。しかしマスク顔ではそれも難しいかも知れない。それもこれもヒトが会する場があってこそそのこと。巣籠りへの孤独感が充満する対コロナ禍の生き方では、害虫の顔にならざるを得ない。自粛に堪えかねた無謀な民には、ウイルスの侵攻が容赦ない。安全に身を委ねながら、笑顔を交わして和を楽しむ川柳交歓の場の到来が待たれる。懐かしい笑い皺にもお逢いしたいし。

## 願法みつる

日日是好

巣籠もりへ腹がふつくら福の神  
夜が来る時刻ばかりが糺の種  
ご近所に無理な笑顔も多すぎる  
お人好しSARSの騒ぎもう忘れ  
カタカナ語十七音を食い尽くす  
青天を衝く栄一の札

始末に悪いアタマ切れすぎ  
役人の癖群れたがる猪牙  
後手後手後手へ老いのあかんべ  
微笑みひとつ弥陀へ旅立つ